

施策マネジメントシート1(25年度目標達成度評価)

作成日 平成 26 年 6 月 26 日
更新日 平成 26 年 7 月 2 日

総合計画体系	政策No.	4	政策名	みんなで元気に笑顔あふれるまちづくり	施策統括部	教育部	部長名	上原 哲也
	施策No.	24	施策名	歴史と伝統文化を活かした郷土愛の醸成	施策主管課	生涯学習課	課長名	辻 健一
					関係課	商工振興課、学校教育課、市民課		

1 施策の目的と指標

① 対象(誰、何を対象としているのか) * 人や自然資源等 市民や市の出身者	➡
② 意図(対象がどのような状態になれば良いのか) 合志市の歴史、伝統文化に触れ、郷土に対する愛着や誇りを持つ	➡

成果指標の測定企画(実際にどのように実績値を把握するか)

市民意識調査により把握	
A 設問:「あなたは、過去5年間に一度でも合志市の歴史、伝統文化を見た、または参加したことがありますか?」【例:歴史資料館、郷土資料館、竹迫観音祭り、須屋小屋地蔵祭り、竹迫城跡公園、二子山石器製作遺跡等】	
選択肢:①見た、または参加したことがある ②見た、または参加したことがない	
B 設問:「あなたは、合志市を郷土として愛着を感じていますか?」(①、②合計の割合)	
選択肢:①とても感じている ②やや感じている ③あまり感じていない ④全く感じていない	
C 設問:「あなたは、合志市を郷土として誇りを持っていますか?」	
選択肢:①持っている ②持っていない	

③ 対象指標(対象の大きさを表す指標) * 数字は記入しない	
名称	単位
A 人口	人
B	
C	
④ 成果指標(意図の達成度を表す指標) * 数字は記入しない	
名称	単位
A 合志市の歴史、伝統文化に触れている市民の割合	%
B 合志市を郷土として愛着を感じていると答えた市民の割合	%
C 合志市を郷土として誇りを持っていると答えた市民の割合	%
D	
E	
F	

2 指標等の推移

指標名			単位	数値区分	21年度現状値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
対象指標	A	人	見込み値			56,281	56,829	57,377	57,925	58,474
			実績値		56,638	57,367	58,237			
	B		見込み値							
			実績値							
C		見込み値								
		実績値								
成果指標	A	%	成り行き値		45.6	45.6	45.6	45.6	45.6	
			目標値		46.0	46.7	47.5	48.2	49.0	
			実績値	45.6	42.7	42.9	42.2			
		B	%	成り行き値		69.9	69.9	69.9	69.9	69.9
				目標値		69.9	70.0	70.0	70.5	70.9
				実績値	69.9	72.6	69.2	70.2		
	C	%	成り行き値		59.8	59.8	59.8	59.8	59.8	
			目標値		60.0	61.5	60.0	60.0	60.0	
			実績値	59.8	62.5	61.5	60.0			
		D		成り行き値						
				目標値						
				実績値						
	E		成り行き値							
			目標値							
			実績値							
	F		成り行き値							
			目標値							
			実績値							
事務事業数				本数		10	10	8	8	8
施策コスト	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円		3,754	4,995	0	0	0
			都道府県支出金	千円		0	0	0	0	0
			地方債	千円		0	0	0	0	0
			その他	千円		41	65	153	142	130
			繰入金	千円		0	0	0	0	0
			一般財源	千円		7,612	7,018	7,291	7,434	8,029
			事業費計 (A)	千円		11,407	12,078	7,444	7,576	8,159
			(A)のうち指定経費	千円		5,810	5,773	2,085	2,039	2,039
			(A)のうち時間外、特殊勤務手当	千円		0	0	0	0	0
			人件費		延べ業務時間	時間		1,885	2,145	2,368
	人件費計 (B)	千円				7,608	8,732	9,434	7,776	7,776
	トータルコスト(A)+(B)			千円		19,015	20,810	16,878	15,352	15,935

基本計画期間における施策の目標設定とその根拠 (水準の理由と前提条件)				A:歴史伝統文化に触れている市民の割合の成り行き値は、実績値の推移を踏まえると、極端な増減はないと考え、平成21年度実績値45.6%で平成27年度まで推移すると設定した。目標値は、市民に、市の文化財や郷土芸能についての周知を図り、歴史資料館での特別展やふるさと探訪バスツアーなどの取り組みをさらに充実するとともに、伝統的な祭り等を支援していくことで、微増すると考え、第1期基本計画の目標値であった49.0%を平成27年度目標値と設定した。 B:郷土として愛着を感じている市民の割合の成り行き値は、実績値の推移を踏まえると、極端な増減はないと考え、平成21年度実績値69.9%で平成27年度まで推移すると設定した。目標値は、現状でも69.9%の人が愛着を感じており、水準は高いと考えられるが、今後も市指定文化財を掘り起こし、周知、啓発していくことにより、郷土を再発見してもらう機会が増えると考え、第1期基本計画の目標値である70.9%を目標値として設定した。 C:郷土として誇りを持っている市民の割合の成り行き値は、実績値の推移を踏まえると、極端な増減はないと考え、平成21年度実績値59.8%で平成27年度まで推移すると設定した。目標値は、現状でも59.8%の人が誇りを感じており、水準は高いと考えられるが、子ども達が地域や学校で歴史や伝統文化に触れ合う機会を作り、歴史や伝統文化への理解を深めることで、少しずつ誇りをもってもらえるようになると考え、平成27年度の目標値を60%と設定した。					
基本計画期間における施策の方針				①旧2町の歴史と伝統文化の相互理解をはかる。 ②伝統的郷土芸能や歴史的な祭りの保存活動を行なう団体の継承者の育成を図る。					

施策マネジメントシート2(25年度目標達成度評価)

歴史と伝統文化を活かした郷土
愛の醸成

3 施策の特性・状況変化・住民意見等

【1】この施策の役割分担をどう考えるか(協働による住民と行政の役割分担)

- ア)住民(事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)
- ・住民は、昔から伝えられた行事などに参加することで、歴史、伝統文化を継承するとともに、それらをもとに新しい文化を創造し伝えていく。
 - ・地域は、地域の歴史や伝統文化を守り、継承することによって連帯感を高める。
 - ・事業所は、地域の行事に積極的に参加し、協力する。

イ)行政の役割(市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)

- ・文化財の保護、保存及び施設の管理を適切に行なう。
- ・施設や文化財について、市民へ啓発し、活用促進を図る。
- ・地域の取り組みに応じた支援を行なう。
- ・学校教育と連携した子どもたちへの啓発を行なう。

【2】施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は今後どのように変化するか?(平成27年度を見越して)

- ・歴史資料館と郷土資料館の統合に向けて、両館の収蔵物調査をすすめ、収蔵及び展示のあり方が検討される。
- ・文化財の標柱等の老朽化が進んでおり、分かりづらくなっている。
- ・伝統的郷土芸能や歴史的な祭りの保存・継承活動を行う団体の高齢化がすすみ、存続が難しくなっていく。

【3】この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?

- ・文化施設について、利用している近隣市町や市民からは評価が高いが、利用しない市民からは税金の無駄遣いだという声も聞かれる。
- ・地域で開催している祭りについて、市の主催にして欲しいという要望がある。

【平成25年度の施策評価(24年度振り返り)における議会意見】

1. 合志の歴史と伝統文化を広く市内外にアピールすること。
2. 好評である「歴史・探訪まちめぐりバス」の更なる充実とPRに努めること。

【平成25年度の施策評価(24年度振り返り)における総合政策審議会意見】

1. 学校での歴史・文化財を取り上げる機会を増やし、子どもたちに関心を持たせること。
2. 文化財標柱など整備の充実とパンフレットや広報の充実で、より多くの人へのPRを行なうこと。
3. 伝統的な郷土芸能やまつの保存活動の支援を強化すること。
4. 祭りなどの各種イベントで文化財等へ関心を持ってもらう取り組みを検討すること。

4 施策の評価

【1】施策の目標達成度(25年度目標と実績との比較)

- A → × 【合志市の歴史・伝統・文化に触れている市民の割合】
：目標値47.5%に対し実績値42.2%であり、達成度は88.8%であった。
- B → ○ 【合志市を郷土として愛着を感じていると答えた市民の割合】
：目標値70.0%に対し実績値70.2%であり、目標は達成できた。
- C → ○ 【合志市を郷土として誇りを持っていると答えた市民の割合】
：目標値60.0%に対し実績値60.0%であり、目標は達成できた。

※左記の背景として考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)

Aについては、歴史資料館の入館者数やまちめぐり探訪バスの実施による参加者数は減っていないが、前年度から0.7%の減少となっている。人口増加により割合が下がったと思われる。B、Cの郷土に対する愛着や誇りについては、目標達成できた。

※○:目標達成 △:目標をほぼ達成(±5%程度) ×:目標を未達成

【2】施策の振り返り(施策の方針、経営方針の達成度等)

- (1)平成25年度経営方針にある、①「合志生誕1300年を記念して市主催事業において合志の歴史、由来について啓発を進める」については、歴史資料館において特別展「合志1300年の歴史と共に～合志の歴史と文化財」を実施し、また合志秋祭りにおいても「合志市の歴史展と勾玉作り体験」を実施した。
- ②「遺跡、史跡を活かし、文化財をとoshした市民交流を行う。」については、まちめぐり探訪バスやこども歴史科学体験教室を実施した。
- ③「歴史、文化財ガイドの育成を図る」については、市民大学講座において市の歴史や植物、地質についての講座を実施した。
- ④「伝統的な郷土芸能や歴史的な祭りの保存活動の支援を行う。」については、各種歴史伝統芸能団体の後継者育成を含めて引き続き支援を実施した。
- (2)事務事業貢献度評価の結果では、平成25年度施策の成果を向上させるために貢献した事務事業として、合志市郷土・歴史資料館運営事業があげられた。

【3】 施策の課題(基本計画期間を見据えて、どのような課題を解決していかなければならないか)

- ・地域の歴史や伝統文化について、ブランド化につながるよう関係機関との連携を図り、アピールに努める。
- ・文化財指定基準要綱の基準に基づき、指定をすすめていく。
- ・歴史資料館と郷土資料館の統合に向けて、両館の収蔵物調査を踏まえ、収蔵及び展示のあり方を検討して方向性を示す。
- ・文化財の標柱等の老朽化がみられるため、整備をすすめる。
- ・伝統的郷土芸能や歴史的な祭りの保存活動を行う団体の継承者の育成を図る。

5 施策の25年度結果に対する審査結果

①政策推進本部での指摘事項(施策目標達成度評価結果報告を受けて・・・平成26年7月7日)

- ・歴史と伝統文化について、転入した市民や子どもたちに関心を持たせるような取り組みが必要。
- ・歴史探訪まちめぐりバスなど、市民に人気のあるイベントをより魅力的なものにする取り組みが必要。
- ・歴史・伝統・文化は合志市固有の財産であり、既存文化施設などを活用した取り組みが必要。

② 総合政策審議会での指摘事項(平成26年8月6日、8月12日、27日まとめ)

- ・行政が本気で取り組む体制づくりを検討すること。
- ・学校教育の一貫として教職員を含めて歴史・伝統を勉強すること。
- ・歴史資料館、郷土資料館の運営方法を再検討すること。

③ 議会の行政評価における指摘事項(平成26年9月10日)

- ・伝統文化の継承者育成に努めること。(具体的な支援策を検討すること)

6 次年度に向けた取り組み方針

● 政策推進本部 平成27年度合志市経営方針(平成26年10月7日)

1. ふるさと探訪まちめぐりバス等の活用により、市民交流を図りながら、郷土愛の醸成に努める。
2. 市の歴史的文化財の市民啓発を図り、保存(管理)団体への支援を行い、風化防止等の適正な保存に努める。
3. 伝統文化保存団体の現状調査を行い、継承者の育成支援に向けた方策を研究する。

施策マネジメントシート3(25年度目標達成度評価)

基本事業名	79 歴史と伝統文化(文化財を含む)の保護	基本事業担当課	生涯学習課
-------	-----------------------	---------	-------

対象	歴史と伝統文化(文化財を含む)	意図	良好な状態で保たれている
----	-----------------	----	--------------

成果指標名	単位	数値区分	21年度 現状値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
A 指定された文化財の数	件	(成り行き値)目標値 実績値		(23) 23 23	(23) 24 25	(23) 25 25	(23) 26	(23) 27
B		(成り行き値)目標値 実績値						
C		(成り行き値)目標値 実績値						
D		(成り行き値)目標値 実績値						

7 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

A: 合志地区と西合志地区の文化財指定の基準に相違があったので、西合志地区の文化財の指定が少ない状態となっている。今後、西合志地区の文化財の詳細調査を実施することで、西合志地区から新たに文化財の指定が進むと考えられ、平成27年度の目標値を27件に設定した。

8 基本事業の25年度の振り返り(目標達成度評価)と27年度に向けての課題

指定文化財指定基準要綱の基準により、23年度西合志地区を1件指定文化財に指定する予定であったが、未指定となっていたものを含めて2件の文化財の指定をおこなった。

基本事業名	80 歴史と伝統文化に触れる機会の提供	基本事業担当課	生涯学習課
-------	---------------------	---------	-------

対象	市民、市の出身者	意図	多くの歴史と伝統文化を知り、触れることができる
----	----------	----	-------------------------

成果指標名	単位	数値区分	21年度 現状値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
A 合志市の歴史と伝統文化に触れている市民の割合	%	(成り行き値)目標値 実績値		(45.6) 46.0 45.6 42.7	(45.6) 46.7 42.9	(45.6) 47.5 42.2	(45.6) 48.2	(45.6) 49.0
B		(成り行き値)目標値 実績値						
C		(成り行き値)目標値 実績値						
D		(成り行き値)目標値 実績値						

7 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

A: 市民に、市の文化財や郷土芸能についての周知を図り、歴史資料館での特別展やふるさと探訪バスツアーなどの取り組みをさらに充実するとともに、伝統的な祭り等を支援していくことで、微増すると考え、第1期基本計画の目標値であった49.0%を平成27年度目標値と設定した。

8 基本事業の25年度の振り返り(目標達成度評価)と27年度に向けての課題

特別展では資料館長所蔵の珍しい鉱物、岩石、化石など300点の展示を行い、市民に楽しんでもらいました。「ふるさと探訪まちめぐりバス」では地元の歴史文化の散策や、子ども歴史科学体験を市内の小学生を対象に行い、郷土の歴史に触れる機会づくりに努めた。今後も引き続き同様の事業を行うと共に、歴史・伝統・文化を知る、触れる機会づくり努める。

基本事業名	81 伝統文化の継承	基本事業担当課	生涯学習課
-------	------------	---------	-------

対象	・無形文化財 ・市民、市の出身者	意図	・継承されている ・後継者として育っている
----	---------------------	----	--------------------------

成果指標名	単位	数値区分	21年度 現状値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
A 後継者のいる団体の割合	%	(成り行き値)目標値 実績値		(63.6) 63.6 63.6 63.6	(63.6) 63.6 66.7	(63.6) 81.8 66.7	(63.6) 81.8	(63.6) 81.8
B		(成り行き値)目標値 実績値						
C		(成り行き値)目標値 実績値						
D		(成り行き値)目標値 実績値						

7 基本計画期間における基本事業の目標設定(水準設定の理由と前提条件)

A: 後継者のいない団体4団体について、現在後継者育成に取り組んでいる団体が2団体あるのでその実現を目指して、後継者育成の支援を強化することで、第1期の平成22年度の目標値を81.8%(2団体増)に設定した。(11団体を支援⇒そのうち後継者が育っている団体の割合)今後さらに後継者育成支援を推進することで27年度の目標値を81.8%に設定した。

8 基本事業の25年度の振り返り(目標達成度評価)と27年度に向けての課題

各種団体に対し、補助金交付時に後継者育成をお願いしている。